

演奏に役立つ One Point Lesson

TUBA

チューバ

タンギングをマスターして表現の幅を広げよう

柳生和大 やぎゅう・かずひろ



- ◆出身 秋田県立秋田高校・秋田大学・東京藝術大学大学院
- ◆所属 日本フィルハーモニー交響楽団
- ◆趣味 整体通い、温泉
- ◆血液型 A型
- ◆星座 しし座
- ◆読者にひとこと 自分の音を聴いてくれるもう一人の自分をつくろう！
- ◆手紙の送り先 BJ 氣付 gyutuba2011@yahoo.co.jp

みなさんこんにちは！ 日々の練習で理想のロングトーンに近づけましたか？ 焦らずゆっくり丁寧に練習しましょうね！

今月はタンギングを中心に勉強していきましょう。まず「タン」の意味はわかりますか？ 僕の好きな「牛タン」の「タン！」＝舌のことですね。要するに**タンギングは舌を動かして音を切る作業のこと**を言います。しかしこの言葉だけを捉えると、まるで舌を突くから音が鳴るように誤解を生んでしまうことがあるので、気をつけてもらいたいです。

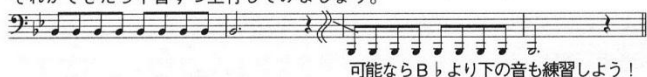
■やはり息をたっぷり使うことから

7・8月号でも触れたように、音の出る仕組みは唇の振動によるものです。唇が振動するためには息の流れが必要であり、その息が唇を通過して唇がなびくことで振動します。ですから、いくら舌をついても息が流れていなければ音はしっかり鳴らず、タンギングはうまくできません。大事なのは**しっかりした息の流れであること**を忘れずに！！

【譜例】はタンギング練習の一例です。これをさまざまな種類のタンギングで練習してみます。そのタンギングの種類には、「レガート・タンギング」→「テヌート・タンギング」→「マルカート・タンギング」→「スタ

【譜例】 ♩=60～

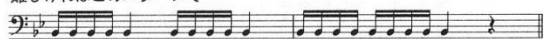
まず半音ずつ下行するように。
それができたら半音ずつ上行してみましょう。



可能ならB♭より下の音も練習しよう！



難しければこのパターンで



半音ずつ上昇してみましょう



ッカート・タンギング」などがあり、この順番でだんだん音が短くなっていきます（この順に練習してみましょう）。【図1～2】に音の形のイメージを書きましたので以下の説明とともに参考にしてください。

■レガート・タンギング

まずレガート、テヌート・タンギングでは以下のことをチェックしましょう。

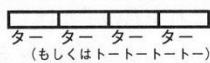
①「トゥオ・トゥオ」と、一つひとつの音が膨らんでしまっていないか

②反対にタンギングをした後に音が「キューッ」と潰れていないか

①②で可能性として考えられるのは、タンギングの際にあごが動いてしまうことです。あごが動くとき口の中の空間が変化してしまいますので、鏡をみて動かないように息を出してみましょう。もうひとつは舌の位置と動きです。実際に声に出して歌ってみてください。「TATA（ターター）」もしくは低音の場合は「TOTO（トートー）」となるように歌ってみましょう。このとき舌の先は大体上歯の裏もしくは歯と歯の間に当たります。「トゥオトゥオ」と発音するよりも、口の中の空間が広く一定に保たれている感じがしませんか？

ロングトーンと同じように空間が保たれていることが理想です。これができたら息だけで行なってみてください。息を手の平にあてたり紙をもって一定になびかせたりして、しっかり息の流れを感じられたら、楽器を吹

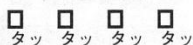
【図1】レガート



【図2】マルカート



スタッカート



いてみましょう。ロングトーンに切れ目を入れるようなイメージです【図1】。

■テヌート・タンギング

テヌート・タンギングは、レガートよりややはっきり発音して音をめいっぱい保つので「DADA（ダーダー）」や「DODO（ドードー）」の発音で練習してみましょう。このとき舌が緊張していたりすると、タンギングが強すぎて発音が汚くなってしまいますので、舌はリラックスして歌うようにしましょう。

最初はお腹や口の中が動く人でも、さっき言ったことを意識していると3、4拍と刻んでいくうちにいくつか正確な音が出てお腹や口の中が固定されてくるはずですよ。その状態を体に覚えさせて、今度は最初からできるようにしましょう。もしうまくいかなければ、歌や息だけに戻り、楽器で吹くときどうまく結びつくように練習してみましょう！

■マルカート&スタッカート・タンギング

これがしっかりできたらマルカートやスタッカートを練習しましょう。音の形のイメージはこんな感じです【図2】。この形は**息の形**だと思ってください。ですので1拍ごとに息の量は減衰しますが、口の中やあごが変化しないように気をつけましょう（発音としてはマルカートは「タンタン」、スタッカートは「タッタッ」）。

息の使い方は、ろうそくの火を軽く吹き消すように意識してみてください。そしてリラックスして舌をやや素早く引くと発音が**はっきりする**と思います。あくまでも息がしっかり通っていることが大前提なので気をつけましょうね。これをよりしっかり吹き消すように息を鋭くするとアクセントになります。

他にもこれらのアクセント・テヌート(≡)などいろいろなパターンがあるので、それらを練習すると曲の中でさまざまな表現ができるようになります。まずはゆっくり丁寧に練習していきましょう！